

災害リハビリテーション支援の軌跡

半田一登 協会長からのメッセージ

支援活動の終了に当たり、宮城県の施設長からお礼の手紙をいただいた。本会の支援活動に「このような支援の力で、利用者様が喜んでいただくのが、なによりも一番の喜びと感謝いたします」と綴られていた。また、宮城県の医師から「理学療法士の支援活動は素晴らしかった。被災者の心を理解し、適切な言葉と行動ができていた」と褒められた。

これらの言葉は支援に当たられた方々の勲章です。そして、協会の誇りです。

被災地支援担当職員からのメッセージ

岩手担当: 災害リハビリ支援は、瓦礫と粉塵の中で開始され、初顔合わせの会員同士が、想いを丁寧に引き継ぎ、そして今、一つ区切りを迎えました。でも、まだたくさんの方が、被災と向き合っている現実を、忘れないでください。

宮城担当: デイサービスの床の上、寝袋で寝起きをした活動当初。ガスの復旧後、お風呂に入った時の喜びはひとしおでした。あれから約7カ月。仮設住宅の構造によっては、入浴困難な住民の方もいます。息の長い支援が必要とされています。

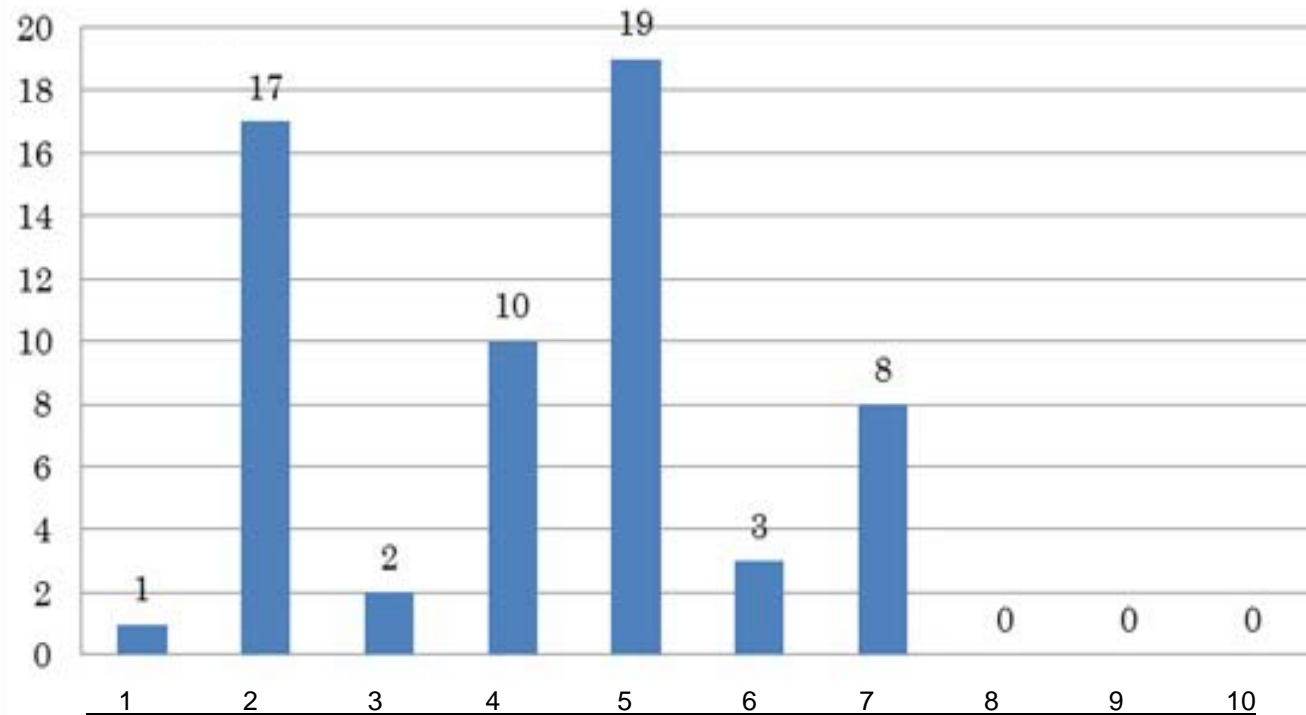
ボランティア活動後の声

- ・活動内容は充実しており、思っていたより理学療法士としての活動もできた。
- ・リハ職ができることは、たくさんあるという可能性を実感できた。
- ・これまでのPT人生で経験した事のない、新たな理学療法の一面を経験できた。
- ・初心に戻り、傾聴や相手の立場になって、今出来る事を考えようとした事で、反省する機会ができた。
- ・今後、具体的なことを行うには、1週間でなく参加者が可能ならばボランティア期間を延ばしたらいいと思う。
- ・1週間ごとにボランティアが変わり、指導した運動などが継続して行われないため、PTが変わっても継続的に治療できるように、生活不活発病や腰痛・膝痛・頸肩部痛に対する一般的な治療法で統一したマニュアルを作成してほしい。
- ・ボランティア活動前に、被災地のニーズを伝達してほしい。
- ・他職種チームも基本的には数日で入れ替わるため、対象者の情報交換がうまくいかない場面があった。
- ・地域リハの視点や難しさを知り、自分の視野が広がった。
- ・リハビリを必要とする被災者の方々のお役に立てたこと。

活動場所



支援終了事由(岩手)



1. 【改善】身体機能やADL等が改善し、何らかの役割の回復(家事、職業復帰など)
2. 【改善】身体機能やADL等が改善し、生活行動の範囲が拡大
3. 【改善】身体機能やADL等が改善し、自主的な(運動などの)取り組みが定着
4. 【維持】身体機能やADL等は改善していないが、自主的な(運動などの)取り組みが定着
5. 【維持】身体機能やADL等は改善していないが、生活不活発や転倒の予防など「意識できる」ようになった
6. 【連携】医療保険によるリハビリテーションサービスに移行した
7. 【連携】介護保険によるリハビリテーションサービスに移行した
8. 【連携】その他のサービス(受診や訪問介護サービスなど)を紹介した
9. 【急変】緊急対応
10. 【その他】本人の所在が不明